

## 令和元年度 第1回 石岡市りんりんタウン構想推進委員会 会議録

1 日 時 令和元年7月9日(火) 午後2時00分～午後4時00分

2 場 所 石岡市役所本庁舎 201会議室

3 出席者 委員13名

### 4 会議内容

#### (1) 開 会

#### (2) 挨 拶

【会長】 今回は昨年度策定いたしました石岡市りんりんタウン構想を推進する為に実施する事業についての報告になる。各地の都道府県や市町村において自転車に関する施策が目白押しである。自転車活用促進法の影響が大きい。茨城県は4月からタンデム自転車が解禁なり、これで半分の都道府県が導入したことになる。また、6月から自転車保険が努力義務として付加された。関東の中でも先に進んでいる。しかし、西の愛媛県は有名であるが、東の茨城県は知名度が低い。さらに石岡市となるとほとんど知られていないのが現状である。今年度12の各種事業を展開するという報告である。事務局からの報告を聞いたうえで、委員の皆様から忌憚のない意見を聞かせていただきたい。

#### (3) 議 事

【事務局】 配布資料1, 2, 3に基づいて説明

【会長】 事務局説明のとおり非常に多くの事業を実施していく予定、ご意見いかがか。

【委員】 非常に多くの施策があるが、担当する主体はどちらになるのか。

【事務局】 関係する課と連携して行っていく。例えば、交通安全ルールブックについてはまちづくり協働課へ作成等依頼していく。自転車教室やサイクリングマップについては、政策企画課が中心となりこども福祉課等の関係課と協力しながら進め、実施については外部業者へ委託していく。

【委員】 ルールブックは横浜でかなり完璧なものを作ったが周知が進まない。自転車

教室についても子ども相手ということで集中力が続かない等難しい面が多い。子どもへの指導だけではなく親御さんへの指導も重要になる。

サイクリングイベントについて、開催時期は3月で決定なのか。時期的に新芽には早く景色が寂しく、フルーツ等も時期がずれるので再検討してはどうか。

【会長】 目標Ⅰと目標Ⅱと分けて順に進めていきたい。まず、「目標Ⅰ“暮らし”」の中の自転車環境の整備についてから進めて行きたい。施策（5）の子ども自転車教室の開催について、デンマーク式教室を予定しているとのことだが、デンマーク大使館と一緒に実施している団体があり、そこと連携していくといいものになるのではないか。

施策（6）の自転車通勤の推奨について、例示されている「自転車通勤導入に関する手引き」は首都圏の企業に向けた手引きのため、職員向きではない。石岡スタイルのような石岡での自転車通勤について分かり易いものができるとうい。

【委員】 施策（3）のサイクルラックは、認知度が低く、何なのかがわからないのが現状である。情報発信に課題があり、ご意見を賜りたい。

施策（6）の自転車通勤の推奨については、工業団地の連絡協議会等と連携していくことも検討している。

【会長】 サイクルラックの設置個所について、どのような場所に設置しているのか。

【事務局】 昨年度は、つくば霞ヶ浦りんりんロード沿いや公共施設を中心に設置しており、今年度については、サイクリストが走られているところを中心に設置していく。設置と合わせて使い方等がわかるような表示をしていく。

【委員】 SNS で見たが、実際に自転車をかけて置けば、使い方やそもそもそれが何であるのかが分かりやすい。

【委員】 現在のニーズにあっていないのではないか。サイクルラックは基本ロードバイク用であり、現状の石岡では需要が低いのではないか。市民向けではなく外部からのサイクリスト向けとなると目標Ⅱの「“観光振興”における自転車活用の推進」になるのではないか。対象がサイクリストとなると設置場所がずれている。サイクリストが立ち寄る場所等に設置しないと活用されない。

【委員】 設置場所が悪い。端の方に設置している現状では、利用者として高額な自転

車を目の届かない場所には置きたくない。利用者を理解できていない。

【会長】 目標である駐輪場の確保と実施内容のサイクルラックの設置は合致しないのではないか。

【委員】 自転車通勤促進について、駐輪場の検討案としてロードバイクを室内にディスプレイのように駐輪してはどうか。来庁する市民に向けた、りんりんタウン構想を推進しているというアピールにもなる。

【副会長】 現状からはかけ離れているため、これから意識改革をしていく必要がある。自転車は自動車から見れば弱者にあたり、弱者に対する配慮やマナーが現状ではかけている。車社会の中で自転車活用を推進していくには、それを受け入れる市民の意識改革が必要になる。

【委員】 施策（５）の自転車教室について、業者に委託していくということだが、企業が社会貢献活動の一環として実施しているところもあり、そういうものを活用していくことも検討してはどうか。

【委員】 高齢者の事故が多い。自転車走行中の事故もある。高齢者の免許返納を推進しているが、ネックになるのは足がないこと。交通手段がない。りんりんタウン構想が進み、自転車活用の環境が浸透していけば、高齢者の免許返納も促進され事故減少にも繋がるのではないかと期待している。

安全教室について、現在は登下校ルートにおける危険個所の注意喚起としての安全教室等を行っている。未就学児への教育はなかなか難しく実施していなかったが、遊びを交えながら行うデンマーク式教室は非常に有効だと考える。今後連携を図っていきたい。

【委員】 自転車通勤の推奨について、４０代～５０代へ自転車の良さを知ってもらうことで、高齢者になったときに免許返納につながり易くなるのではないか。

【会長】 何の下地もない高齢者が免許返納時に突然自転車にシフトするのは難しい。電動アシスト自転車購入時に補助金等があると普及も進む。

自転車通勤推奨について名古屋市では、車通勤者の手当を減らし、自転車通勤者の手当を増やしたところ、爆発的に増えた。検討してみてもどうか。

【委員】 学区内には狭い道や車の激しい通りも多くある。自転車が通行しにくい環境

の中で自転車通学している。児童生徒が安心して通学できる道路環境を整備していただきたい。

【委員】 自転車教室に関して、商工祭などのイベント時に実施すると親子連れや高齢者等多くの方が参加しやすいのではないかと。

【会長】 「目標Ⅱ“観光振興”における自転車活用の推進」の内容について、ご意見をお伺いしたい。

【委員】 施策（10）のサイクリングマップについて、掲載内容が歴史一辺倒にならないようにしていただきたい。サイクルイベントの3月開催はなかなか成功しないのではないかと。

【副会長】 八郷は年間通して果物が途切れないというメリットはある。実行委員会は年度単位で実施するため年度をまたいで開催準備を行うのは難しい。また、秋には各種イベントがすでに集中しており、さらにイベントを追加するのも難しい。

【事務局】 フルーツの実る秋口が一番いい時期であることは理解している。今年度については予算が成立した時期の関係もあり、3月開催となってしまう。国の交付金対象事業となっており、今年度と次年度の2か年間での開催を予定している。今年度については3月開催、次年度についてはベストな時期での開催を予定している。

【会長】 施策（9）のレンタサイクルについて、愛媛県が「E-BIKE アクションしまなみ」を実施する。電動アシストのスポーツタイプ38台のレンタルを実施し、随時台数を増やしていく予定である。全国的にみてまだまだ少ない事例であり、E-BIKEのレンタルをすると人が集まるのではないかと。

【委員】 E-BIKEは単価が高いため、採算がとれない。

【委員】 道がない。そもそも道路の整備をしなければ始まらない。サイクルイベント等についても、地元の人々の意見をもっと聞くべきではないかと。

【事務局】 サイクルイベントについてはこれから実行委員会で検討していくものであり、資料にあるものは、あくまでも現段階での一案である。

- 【会長】 続いて議事（２）について事務局からの説明をお聞きいただきたい。
- 【事務局】 資料４に基づき説明。
- 【委員】 第一印象としてハードルが高いと感じる。クラブ員のイメージは全市民に広げていくのか、有志募集程度なのか。
- 【事務局】 基本的には市民のあらゆる方に加入していただきたい。少しでも市民の方に自転車のことを知っていただくきっかけになればと考えている。
- 【会長】 自転車環境をよくするためのボランティア団体のような印象を受ける。
- 【委員】 多くの方に自転車を乗っていただきたいというようなイメージであるならば、もう少し緩さがないと登録者はなかなかいないのではないかと。
- 【委員】 気軽な感じで自転車に乗りましょうという趣旨であり、楽しみながら自転車に乗って健康増進につなげる等の生涯学習の自転車版というイメージである。
- 【委員】 募集は広くしていきながら、その中で積極的に提案やイベントに参加するサイクルリーダーのようなグループを作るなど、複層式のようにグループ分けを行ってはどうか。
- 【委員】 初心者と上級者の住み分けしないとバランスがとれない。
- 【会長】 例えば 70km のライドイベントにクラブ員 300 人の中から 50 人が参加した。あるいは、子供向けイベントにクラブ員の中から親子連れが 30 人参加した。というようなイメージでよい。
- 【副会長】 これから自転車社会を石岡に取り入れていく。現状はなかなか実現には遠い。公共交通機関の代替という面、純粋に自転車を楽しむという面や健康増進の面などいろいろな観点から自転車社会の広い土台を作っていく為にサイクルクラブを立ち上げていくことは有意義である。
- 【会長】 今後どういう風に発展していくかは誰にもわからない。スタートしてみないと始まらない。これから頑張っていたきたい。

以上